

日米共同訓練が実施されました



11月9日、訓練用機材の一部を輸送するため米海軍三沢基地から鹿屋基地に飛来したC9輸送機

例年、日本周辺海域で実

施されている日米共同訓練の一部の訓練が、準備と撤収作業を含め11月8日～23日（実訓練期間13日～19日）の期間、海上自衛隊鹿屋航空基地を使用して行われました。

本年度の共同訓練は、燃料高騰の問題などにより、訓練海域・行動範囲を制限し、九州周辺海域で行われました。

今回、鹿屋基地が一部の訓練に使用された理由としては、

○訓練海域が九州周辺海域

であること

○P3Cの任務の一つである対潜（潜水艦等に対する）訓練が含まれていること

○九州本土で唯一の海上自衛隊P3Cの基地で、運用の基盤を有していること

○訓練海域での飛行時間の最大限の確保ができること

などによるものです。今回の訓練に参加するため鹿屋基地には、三沢基地所属の米軍機P3Cが1機と米軍人約55人、他の基地

の自衛隊機P3C数機が飛

来し、訓練に参加しました。また、準備・撤収期間に作戦指揮機材等の搬入・搬出のために、米軍機C130が計3回、C9が計5回、C40が1回飛来しました。

訓練期間中は、騒音に対する苦情が、市に2件、基地に10件ありました。

今回の訓練に際して、市としては、鹿屋基地を米軍が使用することに関し、国に、8項目の質問を行い、米軍の基地使用の根拠を明確にするとともに、国及び

鹿屋基地に対し

○騒音等による市民生活に対する影響への特段の配慮

○地域住民への周知・広報の徹底

について申し入れを行いました。また、市内4か所に航空機騒音観測装置を設置し、今回の訓練の騒音測定を行いました。

これらの結果については、市ホームページに掲載します。

遺族と参列者、「必ず助け出す」と涙の決意をあらたに



トミさんの遺影を抱く市川健一さん

昭和53年8月12日に日置市の吹上浜海岸で北朝鮮に拉致された市川修一さん（当時23歳）の母、トミさん（享年91歳）の告別式が11月17日、輝北町の斎場で営まれました。

告別式に参列した人たちは、トミさんの遺影に手を合わせ、その悔しさを分かち合うように涙を流し、トミさんの冥福を祈るとも

に、改めて拉致被害者の一刻も早い救出に向け誓いを新たにしました。

告別式は正午から行われ、修一さんと一緒に拉致された増元るみ子さんの弟、照明さんや拉致被害者の家族会代表で田口八重子さんの兄、飯塚繁雄さんなどおよそ130人が参列。

参列者の焼香に続いて、飯塚さんは「91歳まで待つ

ても息子との再会という夢を実現できなかったことはほんとうに残念です。一刻も早く拉致問題を解決して、修一さんが、残された家族と再会することを約束します」と弔辞を述べました。

修一さんの兄、健一さんは「一刻も早く修一を母の胸に抱かせたいという思いで戦ってきましたが、かなわず悔しくてなりません。父

（平さん93歳）には、なんとか修一に会わせてやりたいです」と涙ながらにあいさつしました。

参列者は1本ずつ花を手向け、全員でトミさんを見送りました。

一刻も早く、家族を取り戻し、本当の意味で安らかな眠りについていただけよう慎んでトミさんのご冥福をお祈り申し上げます。